

## 令和 4 (2022) 年度 学校法人智香寺学園事業計画

### I. 法人の部

私立学校法に基づき、法人として更なる運営基盤の強化を図るとともに、教育の質の向上及びその運営の透明性の確保に努めていきます。

明治 36 (1903) 年の東京商工学校創立以来、経営体制や教育内容などの大きな変遷を経ながらも教育機関としての使命を全うすべく、教育研究活動を行って参りました。変化のスピードが速い現在においては、ICT 技術の進化、価値観の多様化、社会の仕組みの変化などにより、学校そのもののあり方も含め、学ぶということについての多様性が進んでいます。様々な外部環境の変化が激しい今、従前と同じことを続けていたのでは、組織の進化発展は望めません。もちろん守るべき伝統もあります。逆に、時代に合わせて変えていかなければならないこともあります。本学園は仏教の教えを建学の精神に掲げております。仏教の目的である智慧と慈悲の実践される社会の構築を目指し、本学園はこれから何をすべきなのか、その具体的な方向を示すために昨年新しい中長期計画を正智深谷高等学校を含めた学園全体として掲げました。

- ・ 学生生徒に主体性をもって学んでもらうために、何をすべきか
- ・ 誰もが学びやすく、働きやすい学園とするために何をすべきか
- ・ 多様性を尊重し、様々な学園構成メンバーに活躍してもらうために、何をすべきか
- ・ 大学間連携や産学官連携など、外部機関との連携を強化し、学園の発展と地域貢献に資する為に何をすべきか
- ・ 入学者数の確保と同時に、学生生徒納付金以外の収入を増やし、安定した財務基盤を構築するために何をすべきか

これらの課題を解決するために、なすべきことは山積ですが、不断の決意で学園一体となって邁進していきます。そして、地域社会から愛され、必要とされる学園を目指します。

また、継続して「教育研究充実・学生諸活動等助成資金」による寄附活動を進めていきます。

### II. 大学の部

#### 1. 中長期ビジョン策定の背景

大学は、昭和 51 (1976) 年に聖橋工業高等専門学校を前身として開学してから 40 余年という歩みの中、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」をモットーに、単なる実学教育にとどまらず、学生一人ひとりの「こころ」の涵養により一層、力を注いでいきます。また、グローバル化や少子高齢化が著しく進展し、将来の予測が困難になっている現代において、大学には、地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における急激な変化に向き合い、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが求められています。こうした状況の中で、埼玉工業大学は、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、新たに将来計画に関わる中長期ビジョンを掲げ、来る令和 9 (2027) 年を見据えたビジョンを策定しました。

#### 今後の目標

平成 22 (2010) 年以降、幸いなことに大学の入学定員を継続的に満たしてきているが、離籍率の減少や就職率の増加についても真摯に取り組んでいかねばならないと考えています。そこで、新しい中長期ビジョンを実現するため、その判断材料として、次の目標を定めます。

1. 入学定員の確保 100%+α
2. 離籍率 (1 年間) 3%以下
3. 就職率 95%以上

4. 大学院進学率 10%以上
5. 健全な財務の実現
6. 新時代を担う技術の開発と社会への還元

この目標を達成するための戦略として、入学戦略、教育改革戦略、学生支援戦略、キャリア・就職支援戦略、地域連携戦略、研究活動活性化戦略、管理運営体制強化戦略の7項目を掲げ、その具体的な取組みを実施していきます。

## 2. 自己点検評価

4度目の認証期間となる公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）について、協会より指摘のあった部分に対して自己点検作業を継続的に実施し、改善に取り組んでいきます。

- ・ 認定期間は令和2（2020）年4月1日から令和9（2027）年3月31日までの7年間
- ・ 認証期間等の詳細等は、本学ホームページにて広く一般に周知します。

## 3. 学部教育

少子高齢化社会により大きな構造変化を迎える日本社会で活躍できる人材育成を行うことが大学に課せられた重要な使命です。これまで行ってきたアクティブラーニングに加え、ものごとの本質を見抜き、正確で客観的なデータに基づく判断能力を持った人材育成を行えるような教育改革を進めます。

## 4. 学生支援

本学は、仏教精神を基盤に学生一人ひとりが意欲を持って学業や課外活動に取り組むことができる環境を整備し、学習支援、学生相談、ハラスメント相談、障害者支援、経済的支援等の支援を充実させ、相互の人格を尊重し合い切磋琢磨しながら学べる教育環境の確立を目指します。

## 5. ガバナンス・コードの策定

日本私立大学協会が制定した「私立大学版ガバナンス・コード」を参考に、本学の実状に応じて、公共性と自主性を基本とした自律的なガバナンス・コードを策定、公表していく。

### A. 「ガバナンス・コード」制定の目的・意義

- (1) 学校法人智香寺学園は、主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、併せて経営を強化し、より強固な経営基盤に支えられた、時代の変化に対応した大学づくりを進めていく。
- (2) 本法人は、高い公共性を有する学校の運営主体としての社会的責任を十分に果たすことができるよう、新たな公益法人制度や社会福祉法人制度等の改革の状況を踏まえ、これらの公益的な法人と同程度の運営の適正と透明性を確保し、社会から信頼され、支えられるに足る、これまで以上に公共性を備えた存在であり続ける。
- (3) 本法人は、学生・保護者・教職員はもとより、卒業生や地域・社会などの多様なステークホルダーに支えられる存在であることから、幅広く学内外の声に耳を傾けながら使命を全うすることを通じて、高い公共性を追求していく。
- (4) 本法人は、適切なガバナンスを確保し、設置する埼玉工業大学の教育・研究・社会貢献の機能の最大化を図り、社会的責任を全うすることにより、高等教育機関の国公私間の構造的な財政基盤の格差について、社会に問いかけていく。
- (5) 私立学校法においては、所轄庁である文部科学省に寄附行為の認可、解散命令などの監督事項が付与されているものの、学校法人の公共性ととともに自主性が最大限に尊重される原則となっており、その点に鑑みても自律的な「ガバナンス・コード」の制定は重要な意義がある。

## B. 「ガバナンス・コード」 制定における指針

「ガバナンス・コード」は、「埼玉工業大学が主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤に支えられ、時代の変化に対応した大学づくりを進めること」を目的とし、以下の5つの原則に基づき国民に対して宣言するものとする。

- (1) 私立大学の自主性・自律性（特色ある運営）の尊重…建学の精神等
- (2) 安定性・継続性…学校法人運営の基本（権限・役割の明確化）
- (3) 教学ガバナンス…学長の責務、権限・役割の明確化
- (4) 公共性・信頼性…ステークホルダーとの関係
- (5) 透明性の確保…情報公開等

## C. 「ガバナンス・コード」の運用

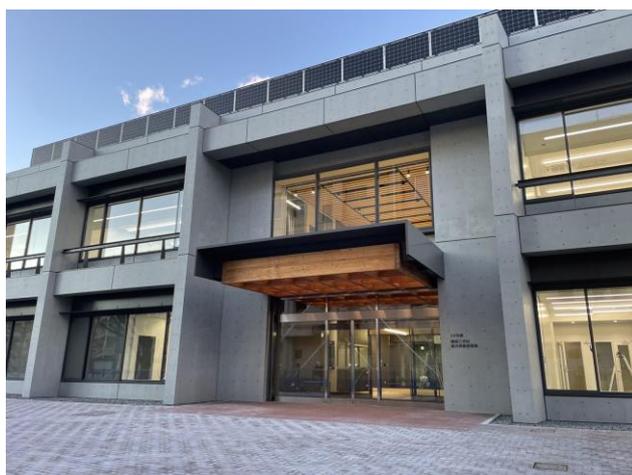
私立大学は、様々な成り立ちや沿革の中で各法人の拠って立つところが形成されてきているというところに十分に配慮することが求められる。

については日本私立大学協会の制定した「私立大学版ガバナンス・コード」を、指針を示すガイドラインとするが、埼玉工業大学の実状に応じ、これを公共性と自主性を基本にした自律的な取組みとして活用する。今後も、法令改正等に応じて必要があれば改正し、より適切な「ガバナンス・コード」を目指したい。

## 6. 新棟建設

昨年より工事が着工された機械工学科の活発な実験・実習・研究を支援する新しい新棟「機械工学科総合実験実習棟」が、令和4（2022）年2月に完成しました。引き続き、機器装置等の移設及び施設周辺の整備工事（旧施設解体・駐車場整備）が本年8月頃まで継続予定。

写真：「34号館 機械工学科総合実験実習棟」



## 7. 学生募集計画

令和4（2022）年度生の学生募集は現在進行中であり結果は出ていないが、令和4（2022）年度入試においては、学科の志願に偏りが目立つ。志願者増のための広報に値する大学内部の教育システムの充実、新しい先端分野への取り組みと同時に、新たな改革が必要と考えられる。全学一丸となって学生確保に邁進したい。

## (A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
(博士前期課程)		(修士課程)	
機械工学専攻	6名	情報社会専攻	15名
情報システム専攻	7名	心理学専攻	10名
生命環境化学専攻	7名		
小計	20名	人間社会研究科合計	25名
(博士後期課程)			
機械工学専攻	2名		
情報システム専攻	2名		
生命環境化学専攻	2名		
小計	6名		
工学研究科合計	26名		

## (B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	
(機械工学専攻)	80名	(経営システム専攻)	50名
(ロボット・スマート機械専攻)	40名	(メディア文化専攻)	40名
計	120名	計	90名
生命環境化学科		心理学科	
(バイオ・環境科学専攻)	54名	(ビジネス心理専攻)	20名
(応用化学専攻)	36名	(臨床心理専攻)	30名
計	90名	計	50名
情報システム学科		人間社会学部合計	140名
(IT専攻)	70名		
(AI専攻)	40名		
(電気電子情報専攻)	40名		
計	150名		
工学部合計	360名		

## 8. 授業実施計画

2022年度の授業実施方針は、「対面で実施することを基本とし、併せて、授業の内容等によりオンライン授業も実施する。」といたします。

本学では2020年度以降、新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも学生の学びを止めず学修機会を確保するとともに、感染拡大防止に努めるため、実験、実習、演習、卒業研究については、対面授業を実施し、その他の科目については、対面授業とオンライン授業を同時に行うハイフレックス型での授業を実施してまいりました。しかし、学生がキャンパスにおいて充実した学生生活を過ごすためには、多くの人との交流は不可欠なものと考えます。

このことから、キャンパスにおける学びや人との交流を深める機会を担保しながら、多様な教育・学修を可能とするために、上記の2022年度の前期授業実施方針としました。

いまだ新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況ではありますが、引き続き必要な感染防止策を講じ、学生がキャンパスにおいて充実した学びと学生生活を送ることができるよう、支援してまいります。

## 9. 研究計画

### ①科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※令和3年度 科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	令和3年度 直接経費	令和3年度 間接経費
基盤研究（C）	新規	機械工学科	趙 希禄	1,600,000 円	480,000 円
基盤研究（C）	新規	生命環境化学科	木下 基	900,000 円	270,000 円
基盤研究（C）	新規	情報システム学科	大山 航	1,300,000 円	390,000 円
基盤研究（C）	新規	情報システム学科	山崎 隆治	1,100,000 円	330,000 円
研究成果研究促進費	新規	情報社会学科	平田 文子	1,000,000 円	0 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田 正哉	500,000 円	150,000 円
挑戦的研究（萌芽）	継続	先端科学研究所	丹羽 修	1,400,000 円	420,000 円
挑戦的研究（萌芽）	継続	先端科学研究所	内田 正哉	500,000 円	150,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	本郷 照久	1,400,000 円	420,000 円
基盤研究（C）	継続	機械工学科	長谷 亜蘭	800,000 円	240,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	有谷 博文	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	望月 義彦	400,000 円	120,000 円
基盤研究（C）	移管	機械工学科	長井 力	2,750,002 円	0 円
計			13 件	14,250,002 円	3,150,000 円

## 10. 研究計画（その他）

### ①若手研究者の育成

令和3年度（実績）

第19回若手研究フォーラム（主催：先端科学研究所 共催：埼玉工業大学大学院）

開催日：令和3年8月11日

開催形式：オンライン

基調講演：本間 格（東北大学多次元物質科学研究所）

「脱炭素ビジネスと産業競争力に重要な蓄電池技術の展望」

特別講演：五味 伸之（埼玉工業大学 工学部 機械工学科）

「歩行困難者のためのモビリティロボットの研究」

藤田 和広（埼玉工業大学 工学部 情報システム学科）

「エレクトロニクスにおける電磁場解析技術の応用」

村中 昌紀（埼玉工業大学 人間社会学部 心理学科）

「『新型うつ』とは何だったのか？ -心理学から挑む『新型うつ』現象-」

松田 智裕（埼玉工業大学 基礎教育センター）

「STEM教育研究プロジェクトの報告」

丹羽 修（埼玉工業大学 先端科学研究所）

「金属ナノ粒子修飾カーボン材料の創成と電気化学への応用」

長井 力（埼玉工業大学 工学部 機械工学科）

「使用者と協調動作する歩行補助パワーアシスト装置の研究開発」

一般講演（院生発表）：口頭発表42件、ポスター発表24件 合計66件

参加者数：来場者99名、オンライン発表1名、オンライン聴講登録者37名

## 1.1. 産業技術展示会等への研究展示計画

令和3年度（実績）

- ① さいしんビジネスフェア 2021 オンライン（5月）
- ② 東京大学生産技術研究所 ITS センターITS セミナー（9月）
- ③ ITS TV 出演（10月）
- ④ 諏訪圏工業メッセ 2021 オンライン（10月）
- ⑤ 2021 さかきモノづくり展 オンライン（10月）
- ⑥ いたばし産業見本市 オンライン（11月）
- ⑦ 彩の国ビジネスアリーナ 2022 オンライン（1月）
- ⑧ 埼玉県産業振興公社シーズマッチング会 オンライン（3月）
- ⑨ 埼玉県共催そごう大宮店開店 35 周年特別企画 本郷研究室 研究展示（3月）

令和4年度（計画）

- ① さいしんビジネスフェア 2022（5月頃）
- ② 諏訪圏工業メッセ 2022（10月頃）
- ③ 2022 さかきモノづくり展（10月頃）
- ④ いたばし産業見本市（11月頃）
- ⑤ 彩の国ビジネスアリーナ 2023（1月頃）
- ⑥ 埼玉県産業振興公社シーズマッチング会（3月頃）

## 1.2. 地域交流実績及び地域交流計画

### ①市民のための公開講座及び心理学セミナー

令和3年度（実績）

【公開講座】オンライン開催

- |       |                          |          |
|-------|--------------------------|----------|
| 6月5日  | おもしろ機械工学講座（長谷准教授）        | 受講者：27名  |
| 6月5日  | 異文化理解講座（平田講師）            | 受講者数：19名 |
| 6月12日 | 人工知能入門講座（大山教授）           | 受講者：58名  |
| 6月19日 | 「親子で参加」キッズ向け体験学習講座（松田教授） | 受講者：43名  |
| 6月26日 | 材料化学講座（田中睦教授）            | 受講者数：33名 |

【心理学セミナー】オンライン開催

- |       |                     |          |
|-------|---------------------|----------|
| 6月5日  | 自我体験から早期記憶へ（三浦教授）   | 受講者数：29名 |
| 7月3日  | 色から見えるいろいろな世界（大塚教授） | 受講者数：29名 |
| 9月4日  | フランクルの夜と霧（友田教授）     | 受講者数：27名 |
| 10月2日 | リラクゼーション技法再訪（巖岩教授）  | 受講者数：25名 |

令和4年度（計画）：ハイフレックスまたはオンラインにて開催予定。

### ②先端科学研究所協力会講演会及び企業見学会

令和3年度（実績）

- |      |  |
|------|--|
| 6月7日 | 第1回協力会講演会（オンライン開催）<br>テーマ：「経済活動における AI 技術の活用と本学の AI 人材育成の取り組み」<br>講師：井上准教授（情報システム学科）<br>受講者数：57名 |
|------|--|

9月7日 第2回協力会講演会（オンライン開催）  
テーマ：「失敗事例から学ぶ地域活性化と販売手法」  
講師：本吉准教授（情報社会学科）  
受講者数：55名

12月10日 第3回協力会講演会（オンライン開催）  
テーマ：「DX時代を生き抜くためのIT人材スキル」  
講師：村山教授（情報社会学科）  
受講者数：71名

※企業見学会：コロナの影響により開催中止

令和4年度（計画）：講演会 年2回（6月・10月）  
企業見学会 年1回（12月）  
セミナー 年1回（12月）

### ③「科学と仏教思想研究センター」研究セミナー及び公開セミナー

令和3年度（実績）：オンラインにて開催

5月28日 第1回研究会「『大日経』を読む 空海の思想の根本となった理論を読み解く」  
7月30日 第2回研究会「法の自性とは何か：『中観五蘊論』の読解を通じて考える」  
9月17日 第3回研究会「景教ー前近代アジア・キリスト教思想の特徴ー」  
11月26日 第4回研究会「デュルケームの著作に見られるユダヤ教思想」  
2月25日 第5回研究会「中世ユダヤのアリストテレス受容」

※科学と仏教思想研究センター公開セミナーはコロナの影響により開催中止

令和4年度（計画）：開催予定

### ④AI研究センター講演会

令和3年度（実績）

6月24日 第1回講演会（オンライン開催）  
テーマ：「Trustworthy Machine Learning（高信頼性の機械学習）」  
講師：理化学研究所 革新知能統合研究センター（AIP）チームリーダー 趙啓斌  
受講者数：53名

7月8日 第2回講演会（オンライン開催）  
テーマ：「癲癇の自動診断における機械学習法に関する研究」  
講師：東京農工大学大学院工学府 特任助教 趙旭陽  
受講者数：53名

令和4年度（計画）：開催予定

### ⑤子ども大学ふかや（深谷市教育委員会との協働事業）

（子ども大学ふかやや学長：内山俊一 学長／実行委員長：教育研究支援課 笠原貴弘）

令和3年度（実績）：深谷市内の小学校4年生～6年生を対象とし、受講者（定員50名）の募集を開始するもコロナ感染状況を鑑み開催中止とした。

※子ども大学ふかやへ申し込みをした生徒を対象とし、代替事業として2月に「まなびクラブ・リクウェイ」を計画するもコロナ感染者の急増により開催を中止とした。

令和4年度（計画）：深谷市教育委員会と協議を行い開催の検討を行う。

#### ⑥高等学校等との連携推進（高大連携・教育連携）

協定校数：38校 [内訳] 高校36校・専門学校1校・日本語学校1校

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1. 智香寺学園正智深谷高等学校    | 20. 群馬県立太田工業高等学校   |
| 2. 埼玉県立久喜工業高等学校     | 21. 埼玉県立皆野高等学校     |
| 3. 埼玉県立深谷商業高等学校     | 22. 群馬県立吉井高等学校     |
| 4. 埼玉県立熊谷工業高等学校     | 23. 埼玉県立川越工業高等学校   |
| 5. 埼玉県立児玉白楊高等学校     | 24. 埼玉県立大宮工業高等学校   |
| 6. 埼玉県立寄居城北高等学校     | 25. 平方学園明和県央高等学校   |
| 7. 埼玉県立深谷高等学校       | 26. 埼玉県立川口工業高等学校   |
| 8. 埼玉県立深谷第一高等学校     | 27. 埼玉県立浦和工業高等学校   |
| 9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校    | 28. 埼玉国際学園（日本語学校）  |
| 10. 群馬県立前橋工業高等学校    | 29. 埼玉県立羽生第一高等学校   |
| 11. 長野県坂城高等学校       | 30. 大妻学園大妻嵐山高等学校   |
| 12. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校 | 31. 埼玉県立滑川総合高等学校   |
| 13. 埼玉県立秩父農工科学高等学校  | 32. 埼玉県立狭山工業高等学校   |
| 14. 埼玉県立妻沼高等学校      | 33. 栃木県立宇都宮工業高等学校  |
| 15. 群馬県立高崎工業高等学校    | 34. 埼玉県立新座総合技術高等学校 |
| 16. 群馬県立藤岡工業高等学校    | 35. 桐生市立商業高等学校     |
| 17. 群馬県立藤岡中央高等学校    | 36. 埼玉県立熊谷西高等学校    |
| 18. 日々輝学園高等学校       | 37. クラーク記念国際高等学校   |
| 19. 埼玉県立進修館高等学校     | 38. 長野県上田東高等学校     |

令和3年度（実績）

##### 【高大連携】

- ・協定校大学見学会（体験授業等）実施（8校） [内訳] 対面6校・オンライン2校
- ・工業高校学習成果研究発表会指導講評依頼（2校）
- ・インターンシップ事業（協定校からの生徒受入れ）（1校）

##### 【教育連携】

- ・探究活動中間発表会助言指導依頼（1校）
- ・AI教育（AIシステム構築に関する学習）に関する教育連携（1校）

※その他協定校からの依頼により大学見学会・インターンシップ等を計画するもコロナの影響により開催中止となる。

令和4年度（計画）：協定校と協議し実施を検討。

⑦深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。

- ・ふかや市民大学（生涯学習）へ運営委員及び講師の派遣
- ・深谷市社会教育委員会へ委員の派遣
- ・メンタルヘルス相談業務委託の継続（臨床心理センター）
- ・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
- ・日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催

⑧長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携推進

- ・埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ理科実験」
- ・「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
- ・「さかきふれあい大学」埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」
- ・坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
- ・坂城高校大学見学
- ・坂城町との連携協定に基づく連携会議
- ・坂城高校を発展させる会

⑨国際交流計画

【日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」】主催：JST

- ・令和3年度（実績）：コロナ感染拡大状況を鑑み申請を見送り。
- ・令和4年度（計画）：申請を検討する。

【第1回ダナン大学・埼玉工業大学国際シンポジウム】主催：先端学研究所国際交流研究センター  
 コロナ禍における新たな国際交流研究活動を実施すべく、海外協定校であるベトナムダナン大学とIT、AI、環境分野をテーマとしたオンラインシンポジウムを開催した。

開催日時：2022年3月4日（日本時間11:00～13:30、ベトナム時間9:00～11:30）

\*シンポジウム タイムテーブル

ベトナム	日本	Contents
9:00	11:00	開会，挨拶（丹羽先端研所長（経緯等の説明））
9:05	11:05	各大学の紹介（ダナン大学，埼玉工業大学）
9:15	11:15	研究紹介1（埼玉工業大学，機械工学科，皆川佳祐） 「Recent topics of seismic engineering and vibration control」
9:35	11:35	研究紹介2（ダナン大学，NGUYEN, Dinh Tuan; Dr.） 「Advanced Sensor and energy conversion materials: A Combined Experimental and Theoretical Study」
9:55	11:55	研究紹介3（埼玉工業大学，生命環境化学科，本郷照久） 「Environmental purification technology using rice husk ash」
10:15	12:15	休憩
10:25	12:25	研究紹介4（ダナン大学，LE, Phuoc Cuong; Associate Professor, Dr.） 「Environmental engineering and waste utilization technologies at industrial sites」
10:45	12:45	研究紹介5（埼玉工業大学，情報システム学科，曹建庭） 「Research topics and achievements in our laboratory」
11:05	13:05	研究紹介6（ダナン大学，HOANG, Phuong Tung; Dr.） 「Application of bio-carbonation to improve properties of construction binders」
11:25	13:25	挨拶（Dr. Hoang Hai ダナン大学日本センター長（総括））
11:30	13:30	閉会

### 13. 就職計画

#### (地域交流)

- ① 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業
  - ・坂城町企業見学会（9月に2日間実施予定）
  - ・坂城町賀詞交歓会（1月に参加予定）
  - ・坂城町企業の合同企業研究セミナー参加（2月開催予定）
  - ・坂城町連携会議（3月開催予定）
- ② 各都道府県との「Uターン就職促進に関する協定」における事業（群馬県／栃木県／長野県）
  - ・地方企業との情報交換会参加（10月以降参加予定）
- ③ 諏訪工業メッセ関連事業
  - ・諏訪工業メッセにおける地元企業との情報交換会（10月予定）

#### (学生支援講座・ガイダンス)

- ① 公務員対策講座（8～9月、2～3月開催予定）
- ② 学年別就職ガイダンス（4月～2月複数回実施予定）
- ③ 就職活動準備講座（前期・後期、金曜5限に開催予定）
- ④ インターンシップガイダンス・インターンシップマナー講座（5月～7月開催予定）
- ⑤ 就活マナー・面接実技研修  
（11～3月 複数回開催予定／合宿形式、一日対面研修、オンライン研修）
- ⑥ 埼玉県大学就職問題協議会主催：17大学合同企業説明会（8月開催予定）
- ⑦ S A I K Oドリル（6月～S P I / w e bテスト／テストセンター対策）
- ⑧ 筆記試験集中対策講座（S P I / 1月～2月実施予定）

#### (学内合同企業説明会等)

- ① 4年生向け単独企業説明会（3月～12月複数回実施予定）
- ② 4年生向けミニ合同企業説明会（4月～9月複数回実施予定）
- ③ 3年生向け業界研究セミナー（6月、11月以降開催予定）
- ④ 3年生向け企業研究セミナー（2月開催予定）

#### (保護者向け就職ガイダンス)

- ① 3年生 保護者向け就職ガイダンス（5月以降開催予定）

#### (学生支援事業)

- ① キャリアカウンセラーによる相談（4月～3月）
- ② 工学部学生対象工場見学会（埼玉・群馬 各県2社見学予定）

#### (情報交換会及び加盟団体)

- ① 地方自治体や業者主催の就職情報交換会参加
- ② 埼玉県大学就職問題協議会
- ③ 関東地区大学理工系就職研究会

### Ⅲ. 高校の部

2019 年末、中国武漢市で新型コロナウイルスの最初の感染者が確認されてから 3 年。社会情勢がここまで劇的に変わることは全く予想できませんでした。ワクチン接種が広がり、感染拡大に歯止めがかかる兆しを見せた時期もありましたが、次々と変異株による感染が確認され、未だにその終息が見通せない状態になっています。学校現場においても臨時休校や分散登校、オンライン授業の実施など様々な緊急対応を行いながら、教育活動を継続してきました。

オンライン授業の広がりに合わせて、タブレット端末などの ICT 機器の活用は必須となり、Zoom などのアプリによる新たな授業形態も常態化しつつあります。大学入学共通テストへの以降など大学入試改革の進行に伴い、求められる学力の変化は著しく、こうした変化への対応力こそが私立高校の生徒募集の成否を握る状況になってきています。

コロナ禍の中、各家庭の経済状況も不安定となり、高校進学においてはこれまで以上に公立志向へと傾きつつあります。とりわけ埼玉県北地区においてはその傾向が強く、今後もその傾向が続くものと予想されます。こうした状況の中で私立高校として安定的な生徒募集を継続していくためには、公立高校はもちろん他の私立高校との差別化を図り、単願受験者数を確保していくこと以外に方策はありません。今後は「選ばれる高校」となるためにこれまでの取り組みを今一度見直し、ウィズコロナ時代を見据えた教育に取り組んでいくことが私立高校の使命となります。そのためには教職員が一致団結して、同じ方向を向きながら前進していかなければなりません。

また、働き方の変化も求められる中においては、仕事量の負担軽減にも取り組んでいかなければなりません。従来の業務の見直しを図り、大胆な断捨離が必要です。そのために、我々教職員の意識を改革して具体的な行動に移していかなければなりません。令和 4 年度からの新教育課程への以降を見据えながら、様々な面における教育改革に取り組んでいきます。そのためには教員同士がお互いを尊敬、尊重し、利他精神を持った心理的安全性の高い教員集団となるための努力を続けて行きます。

#### ■教育目標

仏教精神に基づき、真理を追究し、和を尊び、  
平和を重んずる規律正しい人間、智慧を求める人間を育成すること。

#### ■育てたい生徒像

自分で考え、決断し、行動できる人

#### ■募集定員

系統	コース	募集定員	目安偏差値
特別進学系	S コース	30 名	65
	H コース	90 名	58
総合進学系	I コース	120 名	50
	P コース	120 名	45

## ■教員の行動原則

### ①圧倒的な当事者意識

- ・何事に対しても他人事ではなく、当事者意識を持って取り組む。
- ・批判的な立場を捨て、建設的な前向きな思考で物事に取り組んでいく。

### ②不易流行

- ・偏見や先入観を捨て、新たな視点で教育活動に取り組む。
- ・求められる学力の変化に対応した授業の実践。

### ③凡事徹底

- ・日常的な規範意識の定着（服装・身だしなみ・校則など）
- ・気持ちの良い挨拶、学習環境の整備と授業に臨む姿勢。
- ・感染防止対策の徹底。「マスク着用」「手洗いの励行」「教室の換気」「ソーシャルディスタンス」

### ④ハラスメントの撲滅

- ・パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、モラルハラスメントへの徹底対応。  
（アンケートの実施・研修会の実施・相談窓口の設置）
- ・体罰の厳禁。日常の行動や言動をこれまで以上に意識する。

### ⑤ラポールの形成

- ・生徒との信頼関係の構築。
- ・教員同士の信頼関係の構築。 ※ラポール：心理学用語。フランス語で「橋をかける」の意。  
人と人との関係が和やか心の通い合った状態にあること。

## ■行動目標

### ①授業力の強化

- ・求められる学力の変化に合わせた授業の実施。
- ・「学力の3要素」を向上させるための授業への取り組みを進める。  
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
- ・生徒を主体的に思考を深めていく授業スタイルへの転換を図っていく。
- ・iPadを活用した授業の実践。
  - iPadでできること（授業の効率化）
  - iPadでしか出来ないこと（教育効果の向上）

### ②ウェブを中心とした生徒募集活動への転換

- ・ホームページ、SNS等を戦略的に活用し、効果的かつ効率的な募集活動を展開する。
- ・具体的なデータに基づいたウェブを中心とした戦略的な生徒募集活動を行っていく。
- ・「固定観念」「思い込み」から脱却し、積極的な新しい取り組みを行っていく。

### ③SDGs（持続可能な達成目標）実現に向けた取り組みの実践

- ・ SDGs の基本理念を学び、日常的な行動に移していく。
- ・ 全ての教育活動を SDGs に紐付け、教員同士がアイデアを出し合いながら具体的な行動に移す。

### ④一人一人の希望進路を実現するための指導実践

- ・ 大学入学共通テストをはじめとする大学入試の変化に対応する指導の徹底。
- ・ 新型コロナウイルスの影響による、社会情勢の変化見極めた適切な進路指導を行う。
- ・ キャリアプランの形成を意識した進路指導の実践。

## ■教員の行動指針

教師は「教える職人」「学びの専門家」「あるべき大人の見本」

### ①「教える職人」として

- ・ 日頃より教材研究に努め、指導力の向上を図る。 → 全ての基本となる授業力の向上。
- ・ iPad 活用など新しい教育活動に対して固定観念を捨て、積極的に取り組みスキルアップを図る。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、一方通行でない授業を意識し、実践していく。
- ・ 授業診断や研究授業を積極的に活用し、教師同士の研鑽の機会とする。

### ②「学びの専門家」として

- ・ 常にアンテナを高くし、教育関連情報などの収集に努め、それらを実践に生かす。
- ・ 多様化する生徒へ対応するための指導法（コーチング・エンパワメントなど）について、研鑽に努める。
- ・ iPad の活用や双方向型授業、思考型授業を意識し、その向上を常に図る。
- ・ 教師は「教育のプロ」。  
分かりやすい授業はもちろん、如何に生徒にやる気を出させるかを常に意識して授業を行う。

### ③「あるべき大人の見本」として

- ・ 気持ちの良い挨拶を教員から徹底して実行する（年令・立場・人間関係問わず）。
- ・ 「当たり前のことを当たり前にする」姿勢を自ら示す。教員の常識は、世間の非常識ではいけない。
- ・ 清潔感を持った身だしなみを常に心掛ける（服装・整髪・髭を剃る／整える・酒／タバコの臭い等）。
- ・ 常に丁寧な言葉遣いを心掛け、お互いが気持ちよく会話ができるよう意識する。
- ・ 教育者として我々の「言動」「行動」の全てが、保護者や地域より見られていることを忘れない。その姿が学校の評価となり、生徒募集に繋がっていくことを常に意識する（生徒・保護者・地域）。

## ■具体的な取り組み

### ①授業診断の実施

今年度で3回目となる授業診断。年間500本以上の私立高校での授業を診断している(株)エデュフィールドの光延栄治氏とアドバイザー契約を結び、本校教員の授業力の向上を図っています。1月に行う研究授業を中心に、今年度挙げられた課題の克服を図っていきます。学力の3要素を高めるために、従来の授業への固定観念を捨て、双方向で思考させる授業の実現を目指していきます。

### ②スタディツアー(探求型選択制就学旅行)の充実

- ・SDGsの実現を共通課題とした複数のモデルコース(国内、海外)から、各個人が希望するコースを選択できるスタディツアーを実施します。
- ・3年間を通じた事前/事後指導を行い、机上では学べない研修内容を取り入れていきます。
- ・現地では「交流」の機会を多く持ち、プレゼンテーションを通じて相互理解に努めていきます。

### ③地域との連携

- ・深谷ロータリークラブとの「駅前花壇の植え替え」や近隣の桜ヶ丘小学校の「さくらっこサポーターズ」などの活動を通じて、地域との交流を深める機会としていきます。
- ・ボランティア活動の一環として、深谷市内のNPO団体が運営する「こども食堂」の手伝いや市主催の高齢者対象の「LINE教室」などの運営補助などを行っています
- ・1年次に行う「深谷アンバサダープロジェクト」を通じて、地元深谷の魅力を再発見するための滑動を行っていく。取材やフィールドワークによって得た情報をプレゼンテーションとしてまとめ、市役所や商工会議所などの方々を審査員として招いたプレゼン大会を開催する。

### ④宗教研修

- ・学校行事として、年間3回(精霊会/7月、法然忌/10月、成道会/12月)宗教行事を行います。各行事の意味を理解することを通じて、建学の精神の理解を深め、利他精神を学ぶ機会としています。
- ・成道会(12月)の法要終了後、様々な分野で活躍される方々を講師としてお迎えし講演会を実施する。

### ⑤働き改革の実践

- ・仕事内容の見直しを図り、メリハリをつけた働き方の実践を促していきます。  
有休休暇を積極的に取得すると同時に、振替休日を確実に取得していきます。
- ・タイムカードおよび勤怠システムを有効活用し、勤務時間を管理職が定期的に確認していきます。